

JA全農ウィークリー

J A Z E N - N O H W E E K L Y

2面

**全農パールライス
千葉米粉工場が竣工**

(米穀部)

Web版
JA全農ウィークリーは
こちらから



<https://www.zennoh-weekly.jp/>

6-7面

**会社探訪
株式会社JAライフクリエイイト福島**

(広報・調査部)



配送先変更(住所・宛名)、
配布部数変更はこちら



<https://forms.office.com/r/yUWVHyVVtK>

全農

ZEN-NOH

食と農を未来へつなぐ。

News!



全農パールライス千葉米粉工場が竣工

海外市場の開拓も視野に国産米のより一層の消費拡大へ

米穀部



米粉工場の竣工を祝って関係者がテープカット

竣工式は千葉市稲毛区にある同社米粉工場で行われ、全農からは金森正幸常務理事、荒井隆常務理事、千葉県本部の松元善二運営委員会会長、吉田光本部長らが出席しました。

同社の山本貞郎社長が「米粉の製造・販売を通じて、輸入原料が主体のパンや麺類の原料にも米粉を使用いただくことで、国産米の消費拡大につなげていきたい」とあいさつしました。



竣工した米粉工場

同社で製造・販売する米粉は、「米の品種」と「製粉方法」にこだわり、パンや麺に適した高品質な米粉である点が特徴です。グルテンフリーである米粉は、海外市場での需要が見込まれており、国内市場にとどまらず、国内市場にも取り組んでいく計画です。

全農はグループ会社と連携し、国産米の需要確保、消費拡大に取り組んでいます。

全農パールライス(株)は9月2日に米粉工場の竣工式を行いました。同社は精米・炊飯・米加工品事業を行っています。

News!



JOC トップアスリートサポート賞を受賞

「ニッポンの食」を通じて卓球大会・海外遠征など支援

広報・調査部



「ニッポンの食」を手に笑顔の卓球日本代表選手(左から篠塚大登選手、張本美和選手、戸上隼輔選手)

トップアスリートサポート賞は、スポーツ選手や指導者の環境整備に貢献した企業・学校などに贈られるものです。全農は2011年から(公財)日本卓球協会のトップパートナーとなり、同協会の推薦により受賞することができました。

全農は▽19年に開催した

全農は、「令和6年度JOCスポーツ賞 トップアスリートサポート賞『優秀団体賞』」を受賞しました。7月12日に東京都内で行われた表彰式では、安田忠孝代表理事専務(当時)が(公財)日本オリンピック委員会(JOC)の三屋裕子副会長から賞状とトロフィーを受け取りました。



トップアスリートサポート賞「優秀団体賞」の賞状とトロフィー

「ITTF(国際卓球連盟)卓球ワールドカップ団体戦」で特別協賛したこと▽卓球日本代表が海外遠征する際に日本食を提供してきたこと▽「全日本卓球選手権大会(ホープス・カブ・バニビの部)」「小学生以下」を都道府県予選会から長年特別協賛してきたこと——などが評価されました。

全農はこれからも「アスリートの活躍を『ニッポンの食』で支える。をスローガンに、海外で活躍するスポーツ選手や将来を担う次世代の子どもたちを食で応援します。



世界少年野球大会秋田大会に協賛

12カ国・地域の95人が基礎を学び、交流試合で熱戦

広報・調査部



スイカを食べる参加者

秋田県大仙市で開催された本大会には、世界12カ国・地域から95人の野球少年少女が集結。野球教室では野球の基礎を学び、国際交流試合では秋田県内の6チームと招待した中華台北のチームが対戦し、熱い試合を展開しました。

全農は、一般財団法人世界少年野球推進財団(WCBF)が7月30日から8月7日に開催した第31回世界少年野球大会秋田大会に協賛し、来日した世界各国の野球少年少女にスイカを提供しました。また、高校球児の保護者を対象とした「JA全農 presents スポーツ栄養教室」を実施しました。



保護者を対象に開かれたスポーツ栄養教室

また、スポーツ栄養教室では、管理栄養士の阿部菜奈子さんが保護者77人を対象に高校球児のパフォーマンスを支える体づくりのために必要な栄養や、その栄養の上手な摂取方法、お薦めの食材などについて講義を行いました。参加者には、全農秋田県本部から「のむりんご」バックジューズ、ニッポンエールグミなどを渡しました。

全農は今後も、「食」の大切さを伝えるとともに、子どもたちの夢や成長を応援していきます。



「令和7年度ミスあきたこまち」3人が決定

9月から1年間、秋田米の魅力と生産者の思いをPR

秋田県本部



秋田県本部は「令和7年度ミスあきたこまち」を決定し、8月22日に秋田市で委嘱状交付式を行いました。選ばれた3人は、生産者の思いを消費者に届け、秋田米をPRします。

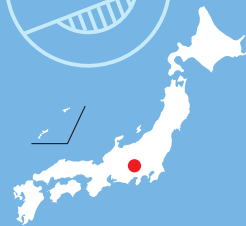
交付式では、県本部運営委員会の小松忠彦会長が「ミスあきたこまち」に委嘱状と記念品を手渡ししました。小松会長は「お互いを助け合う気持ちと自信を持つて、より一層秋田米のPRに

力を入れていただきたい」と激励しました。

「ミスあきたこまち」を代表して高橋朋愛さんは「歴代のミスあきたこまちの活躍を引き継ぎ、秋田米の魅力と生産者の思いを全国の皆さまへ届けします」と決意表明しました。

任期は9月1日からの1年間。県内で開催されるイベント活動を中心に、生産者と消費者の懸け橋として、秋田米をPRします。

「ミスあきたこまち」に選ばれた(左から)内藤蓮さん、中村美穂さん、高橋朋愛さん



期待の赤系ブドウ「サンシャインレッド」

全国初のAー房選果機を開発し実証スタート

山梨県オリジナル品種である赤系ブドウの新品種「サンシャインレッド」は、15年の歳月をかけて山梨県果樹試験場で開発されました。大粒の赤系品種「サニードルチェ」と「シャインマスカット」を交雑し、「シャインマスカット」の特徴を受け継ぐブルーツ王国やまなしの期待の新品種です。

「サンシャインレッド」は、2022年に「甲斐ベリー7」で品種登録。23年に「サンシャインレッド」で商標登録されました。糖度は18〜19程度と高く、酸味も少なく、皮ごと食べることができます。また、口に含むとマスカット香があり、華やかな香りを感じられます。まだ出荷量が少ないですが、今年からJAタウンでも数量限定で販売を開始します。



サンシャインレッド

高く、香りや食味の評価が高いことはもちろん、着色度合いが重要であるため、引き続き県とJAグループ山梨で連携し、栽培技術の向上や認知度アップに向けたPRや販促活動を行っていきます。

ニッポンエール「山梨県産サンシャインレッドグミ」発売

9月16日には、ニッポンエールのご当地グミシリーズで「山梨県産サンシャインレッドグミ」が発売されます。「サンシャインレッド」の華やかな香りと甘みをグミでお楽しみいただけます。



サンシャインレッドグミ

県やJAなどと実証機1房1秒で糖度測定

全国1位のブドウ出荷量を誇る山梨県では、県や県内JA、シブヤ精機(株)、山梨県本部が協力して、全国初となるブドウを1房ずつ選果する房選果機を開発し、8月18日から実証を開始しました。

実証機には、透過式糖度センサー、色や房形を識別する人工知能(AI)カメラ、重量計測機がライン上に具備されています。フリートレーに1房ずつ載せられたブドウがこれらの計測を通過した後、糖度別などにより各排



全国初となるブドウの房選果機

出口に仕分けられ、作業員が箱詰めします。センサーでは1房1秒で糖度を測定します。

各JAで選果された「シャインマスカット」を利用して、AIカメラで数多くの房画像のデータを蓄積し、色や房形など等級識別をAIに学習させることや、選果ラインでの作業検証などを行う必要があるため、実用化までには4、5年を見込んでいます。

食味を重視した県産ブドウの差別化・高付加価値化に加え、生産者の労力軽減、生産基盤の維持・拡大のため、将来的には生産者から直接持ち込まれたブドウをそのまま選果機に通す実証も行う予定です。

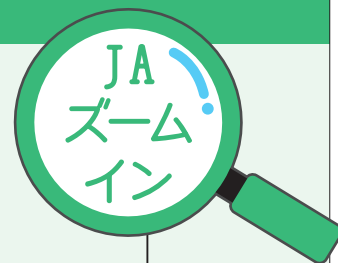


選果機を流れる「シャインマスカット」



伊賀ブランド「白鳳梨」

三重県の北西部に位置するJAいがふるさと管内では、肥沃な土壌と豊富な水、盆地特有の寒暖差を生かし、「伊賀米」「伊賀牛」など数多くの特産品を産出しています。



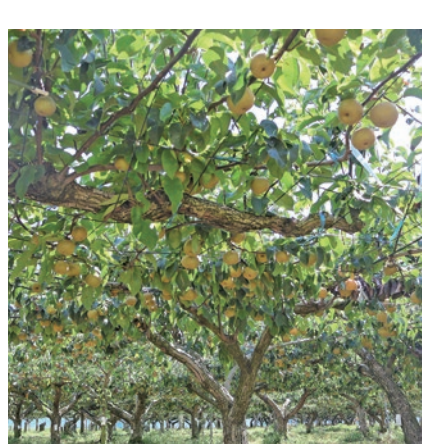
伊賀ブランド「白鳳梨」さらに飛躍へ

環境にやさしい農業で面積も輸出も拡大

無袋栽培で高い糖度
評価高まり販路広げる

主要な特産品の一つとして注目されているのが、伊賀市羽根地区で生産される「白鳳梨」。築城三人の一人として知られる藤堂高虎が築いた伊賀上野城の別名「白鳳城」から名付けられたブランド梨です。

1948年に水田転作として始まり、白鳳梨生産組合の20戸が15・9畝で「幸水」「豊水」「あきづき」を中心に栽培しています。果実に袋かけをしない無袋栽培により太陽の光をたっぷり浴びて育ち、高い糖度となるのが特長です。



袋かけをしない「白鳳梨」の園地

西市場を中心に出荷されるほか、輸出にも取り組み、その販路を広げています。

おいしさ+やさしさ
県や市のブランドに認定

全国的に梨の栽培面積が減少する中、「白鳳梨」は栽培面積を広げている、数少ない勢いのある産地です。同組合では若手生産者も熱心に栽培し、梨の評価や販路



活気のある「白鳳梨」の選果場

拡大を背景に規模拡大を進め、活気のある生産活動を行っています。

たい肥など有機質肥料中心の土づくりや減農薬栽培、2003年からは全生産者が環境負荷の軽減に配慮した持続的な農業に取り組んでいます。

人と自然にやさしい生産方式で作った農畜産物を県が認定する「みえの安心食材」

を取得。また、優れた商品をと市が認定する「伊賀ブランドーIGAMONO」にも選ばれ、知名度を上げています。

おいしさに加え、環境にやさしい取り組みとの両輪で消費者に支持されるブランドをめざし、生産者の強い結束力とJA・関係機関との連携のもと、消費者の志向に合った栽培に挑戦しています。

JAいがふるさと（三重県）



概要 2025年3月31日現在	
正組合員数	1万632人
准組合員数	9768人
職員数	580人
販売品取扱高	57億円
購買品取扱高	60億8千万円
貯金残高	2843億3千万円
長期共済保有高	5746億円
主な農産物	米、肉牛、イチゴ、梨、ブドウ、メロン、トマト、ネギ、シタケ、柿、アスパラガス、ナバナ

全農グループ 会社探訪

株式会社 JAライフクリエイト福島

J Aグループ福島の生活事業を補完 「安全・安心」な商品とサービスを提供

株式会社 JAライフクリエイト福島は、主に食料品・日用品などの生活必需品をはじめ、食材宅配やリフォーム、介護用品のレンタル、葬祭事業など幅広い事業に取り組んでいます。JAグループ福島の生活事業を補完し、組合員のニーズにタイムリーに対応することを目指しています。【広報・調査部】



プライベート商品



エコーブマーク品



福島牛モモ・バラ焼き肉用



福島牛ヒレステーキ用

「進化と実践」に努めて タイムリーに対応

「生産者と消費者を結ぶ懸け橋」「健康で豊かな暮らし」「安全・安心」を経営理念に掲げ、4部門・4営業所で構成しています。設立から54年。現在は県内に8カ所の食材センター、3カ所の介護福祉センター、7カ所の催事センターを設けています。

近年の国内外の情勢変化や頻発する自然災害、原料の高騰により商品などが値上がり

し、厳しい事業環境の変化が続いています。このような情勢を踏まえJA生活事業をめぐる事業再構築を喫緊の課題として、あるべき姿を発揮するため積極的に取り組んでいます。また、進化と実践により組合員のニーズにタイムリーに対応する補完機能を発揮しています。

福島県産農畜産物を使用 新規利用者を獲得へ

食品事業では、福島県産農畜産物を使用したプライベート商品の開発と製造に取り組めます。全農福島県本部と連携し、「福島牛」「麓山高原豚」などの銘柄販売強化や消費拡大運動も展開しています。

エコーブマーク品やニッポンエール商品など全農ブランド商品の取り扱い拡大、新茶や飲料水、ネットショッピング商品などの拡大も進めています。農産物直売所での取り扱いを増やすほか、コンビニエンスストア型店舗（ライフショップ）を2カ所で運営しています。JA・県本部と連携したキャンペーンも展開しています。

食材宅配事業では、「JAふれあい食材」宅配事業の維持拡大に向けたコース・メニューの改編検討や、新キャンペーンを設定し新規利用者の獲得に取り組んでいます。

「JAふれあい食材」は、管理栄養士が監修した献立表・レシピ・材料をセットにしています。個人利用者だけでなく、JAの介護施設にも届けています。福島県JA食料事業連絡協議会と連携して事業を活性化し、県域統一キャンペーンなどによる新規利用者の獲得に取り組んでいます。

変化に対応した生活事業 介護福祉・催事事業も工夫

生活事業では、組合員の生活スタイルの多様化や環境変

会社の概要（2025年9月1日現在）

本社所在地

福島県郡山市田村町金屋字下夕川原76番1

事業内容

- 食料品・日用品・酒類の販売
- 食材宅配事業
- 精肉加工
- 住環境整備（リフォーム）事業
- 介護福祉事業
- 催事（葬祭）事業

創業年月日

1971（昭和46）年7月

代表者

代表取締役社長
増子 稔夫

従業員数

179人

公式HP



健康で豊かな暮らしへ 県内JAと一体で事業

代表取締役社長 増子 稔夫 氏



昭和46年に「福島県経済農業協同組合連合会」の子会社として設立され、JAグループ福島における生活事業の補完機能を担ってきました。

主な事業は、食料品・日用品などの生活必需品をはじめ、安全で新鮮な食材の宅配、快適生活のためのリフォーム・太陽光発電、高齢化の中での介護用品のレンタル、人生の最期に心をこめてお手伝いする葬祭事業など、福島県内JAと一体となり取り組んでおります。

私たちは、これからも弊社の経営理念を実践し、私たちの原点であります「安全・安心」な商品の提供に誠実に取り組み、農家組合員・利用者皆さまの健康で豊かな暮らしのために貢献してまいります。

食材宅配事業のキャラクターと商品



JA ふれあいマルシェ



JA ふれあい食材キャラクター
あいちゃん



食材宅配お届け品の一例

化に対応した事業を展開しています。住宅リフォーム関連、健康関連、展示会などを重点にしています。

建築士や施設工事管理者による専門的なリフォーム相談、害虫・害獣駆除キャンペーン、遊休施設を活用した「健康ふれあい館」の開催など、組合員の多様なニーズに対応した取

生活事業の商品



お米保存袋・各スプレー他



防災安心セット

り組みを進めています。

介護福祉事業では、組合員や利用者の身体状況や住環境に合わせた福祉用具の選定・提供に取り組んでいます。福祉用具レンタル、特定福祉用具販売、介護保険住宅改修工事などを行っています。

催事事業



葬儀返礼品（詰め合わせ）



葬儀返礼品（煎茶）



JA葬祭マーク

催事事業では、県内JAやJA子会社への葬儀関連商品（返礼品・葬具・仏具類、墓石など）をお客さまのニーズに合わせて提案・販売しています。「感謝と真心を持つてお手伝い」をモットーに取り組んでいます。

JA役職員向けに「催事だより」、組合員向けに「JA葬祭通信」などを発行し、情報発信にも努めています。「信頼されるJA葬祭事業」を構築するためにスキルアップ研修会を開いて資質向上に努めています。

大分産和梨のみずみずしい味わい 「メイトー×ニッポンエール 大分産和梨」を新発売

全農と協同乳業(株)は、(株)ファミリーマートと協業し、「メイトー×ニッポンエール 大分産和梨」を開発しました。全国（南九州・沖縄地区除く）のファミリーマート約1万5700店舗で9月23日から発売します。

【営業開発部、酪農部、協同乳業(株)】

和梨のフレッシュでみずみずしい味わいを表現した、果実感あふれる清涼

飲料です。商品に使用する大分県産「和梨」は、通常品と味は同じであるにも関わらず、皮の傷や形が不ぞろいなどの理由で、市場に出回らないものを積極的に使用しており、生産者支援と食品ロス削減に貢献しています。

全農は、国産農畜産物の消費拡大や生産振興に向けて、今後も「ニッポンエール」の取り組みを全国の産地・品目に拡大していきます。



メイトー×ニッポンエール 大分産和梨

「金鷲旗玉竜旗高校柔剣道大会」に協賛 青少年育成・地域貢献を通じたJAファンづくりを目指す

福岡県本部を含むJAグループ福岡は、7月22日に福岡市総合体育館（福岡市東区）で開幕した、「金鷲旗玉竜旗高校柔剣道大会」に協賛しました。大会は、春の選抜と夏のインターハイに並ぶ高校三冠の一つです。

【JAグループ福岡】

約1万人近い来場者が見込まれることから、協賛を通じて国産国産

やJAグループ福岡「食・農う部!」のPRやJAファンづくりにつなげることが目的です。

23日には「金鷲旗」柔道女子の表彰式が開かれ、優勝した富士学苑高校（山梨県）に対し、JA福岡中央会の乗富幸雄会長が県産米「元気つくし」1年分（60㌔）を、準優勝の比叡山高校（滋賀県）には、「豆乳飲料 博多あまおう」を贈呈しました。



優勝校に福岡県産米を贈る乗富会長



JA全農の産地直送通販サイト

JAタウン ショップ紹介

JA全農福島

「園芸王国ふくしま」では、盆地特有の地形・気候を生かし、年間を通じてさまざまな果実を生産しています。その中でも夏の果実の王様・桃は全国第2位の生産量を誇ります。太陽の光をたくさん浴びて、とても甘くジューシーな味わいで人気の高い逸品です。

「福島桃の恵み」は夏に収穫された桃をそのまま食べているかのような自然な味わいに仕上げました。さっぱりとしたのど越しで、とても飲みやすい桃ジュースです。リピーター多数の人気商品を、つついたくさん飲んでしまう桃好きな方へ、30本入りでお届けします。



福島桃の恵み…190㌔×30本 6000円（税込み）

ご注文は
こちらから



▶ JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>
▶ お問い合わせは ☐ shop@ja-town1.com